



お江戸舟遊び瓦版 1072号

水彩都市江東 ころろ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

～助け合いの新しい一歩を――小さくても、少しずつでも、できることをできるだけ～

日時：2024年12月8日（日）11時半～17時

所：東京都立大学荒川キャンパス

主催：第4回荒川流域防災住民ネットワーク実行委員会

共催：荒川区、荒川流域防災住民ネットワーク実行委員会

東京都立大、SDGsいたばしネットワーク

後援：荒川区、荒川区教育委員会、荒川区社会福祉協議会、東京消防庁尾久消防署、国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所、東京都、東京都社会福祉協議会、東京都助産師会、東京災害ボランティアネットワーク、協力：あらかわボランティアネットワーク、あらかわぼうさいの会、協賛：麦の穂基金、東京荒川ライオンズクラブ、小林商事、有ケアプランニング

荒川流域防災住民ネットワーク



1. 開会挨拶：脇田弘共同代表（川はともだち）

荒川流域防災住民ネットワークは、2019年台風19号の被害を契機に始まった気候変動時代の新しい地域活動。今年荒川区での開催となった。「誰も置き去りにしない」早期の避難の実現を目指し、現場の人同士が「助け合いの新しい一歩を――小さくても、少しずつでも、できることをできるだけ」とテーマを定め、各人が身の丈で参加できるよう工夫しようと考えた。

今日の集いをスタートとして、荒川流域の住民力をつなげ、災害時のための小さなネットワークをできるだけ沢山作り、「個別避難計画」や「地区防災計画」を進め、いつ起こるとも知れない水害・災害への備えにこのネットワークを未来に向けて続けていくつもりです。

2. 来賓挨拶：荒川区長：滝口学

2019年台風19号の大水害で防災に目覚めた。今日のイベントを通じて、防災の学びを進め、障害者対策を始め、地震に強い地域を皆で作りたい。



3. 講演：「自助・共助・公助の総和を最大化する共生・共助のあり方」

加藤孝明（東京大学生産研究所教授・東京大学社会科学研究所特任教授）

- ・荒川区の防災審議会に25年前に係わったことからこの地域はよく知っている。
- ・先週韓国のソウルで117年ぶりの大雪に出会った。異常気象を受入れるしかない。

○ 公助への依存増大：公助万能論？

- ・水害の度に行われる検証・訴訟…前提となっている「河川は管理しきれぬ」ものとは言えない。
- ・市民アンケート：各地で防災がトップとなっているが、中途半端な政府主導「皆 避難所へ」？
- ・都内の救急車の数は、360台×一人に2時間掛かると、発災時先着2100人の対応が限度！

○ 研究に取り組む基本スタンス：

- ・水害とは川の容量を超えると水は溢れ、高い所から低い所に流れる
- ・単なる社会実験に留まらず、真の社会実験、社会に根付かせることを目指している。
- ・気候変動と流域治水＝新しい地域文化を作り上げる：温故創新！が必要だ。
- ・葛飾区では、仮に浸水しても大丈夫なまちづくりを進めた：地域との話し合いを続け、浸水型まちづくり構想が生まれ、東京都も追いかけてくるまでになっている。
- ・荒川流域では、流域運命共同体という意識が不可欠で、下流の我々は上流の人に感謝すべき！
- ・流域治水には、上流から下流までの“ハードとソフト”を駆使し、豊かな地域の創造が必要だ。



4.助け合いの街づくり活動報告

① 川はともだち「身近な川をもっと知ろう」脇田、飯田、小寺、種村

- ・ 隅田川に関心を取り戻そうと、2019年に設立し、みんなで手作りのボートを2艘作った。資金はクラウドファンディングで行い、乗船会で楽しんでもらった。
- ・ 水害には早期避難が必要で、援助してくれる人との繋がりが大切だ。未体験の行動には必ず不安があり、信頼できる人に託すこと、リアルな行動体験が必要。



② 荒川区中学校の防災活動紹介 南千住第二中学校レスキュー部

- ・ 3.11を経験し、レスキュー部を作り、守られる中学生から守る中学生を目標に、町会・消防署防災訓練、地域の祭りなどに加している。



5.グループ討議「つながろう古いも若きも つなげよう分かち合う心」

- ・ よんなな防災会・よんなな防災会女子部石橋彩子氏の司会で、グループワークを行った。

Step1 日頃していること? : 停電に備える。防災訓練参加。備蓄品準備。仲間づくり……

Step2 不安を共有? : 簡易トイレ。備蓄が3日分? 町会に頼る。人との絆づくり……

Step3 不安解消の方策? : トイレキット配布。行政の力を借りる。ゴムボート用意……

Step4 具体化のために? : SNS活用。住民と防災を考える。法的仕組みづくり。民間協定…
ハードも大切だが、避難所へのガイドづくり・ソフト作りも必要。



6.講評 加藤孝明、石川秀樹（東京都立大学健康福祉学部教授、集団災害、災害医学、救急医学）

- ・ 自助・近所（近助）・共助・公助があり、どれかに偏ってはダメ。個人にはお金も権力もない。
- ・ 防災も街づくり：市民先行・行政後追い。総合性・内発性・自立発展性。多様性+緩い連携が！
- ・ 自由に声を出し合い、認め合う社会が必要。地域の皆様の貴重なアイデア・知恵が素晴らしい。

展示コーナー



防災デジタル紙芝居



大東文化大ステラ立体地図



社会福祉協議会障害者体験



高齢・障害・妊婦体験



荒川区防災課



荒川下流河川事務所



来年担当の足立区の方々



閉会挨拶：増谷共同代表
（都立大健康福祉学部教授）
お疲れさまでした。150
人参加、
学びを
広げよう



所感：荒川下流防災住民ネットワークも努力を積み上げ、第4回になった。住民の自分事としての防災意識の今後の発展、活動継続に期待したい。誰ひとり取り残さない。（文責 中瀬）